

賛美からつぶやきへ

出エジプト記一五章22～27節

そこでモーセが主に向かって叫ぶと、主は彼に一本の木を示された。彼がそれを水に投げ込むと、水は甘くなった。(25)

出エジプトの大きな喜びに包まれたイスラエルの民でしたが、その喜びは長続きしませんでした。三日も経つと、試練と共に喜びは消え、つぶやきが出てきました。荒野を三日も歩いてても水を得ることが出来なかつたのです。やっと見つけたマラの水も、苦くて飲むことが出来ませんでした。民はモーセに向かって「私たちは何を飲むのですか」とつぶやきます。モーセが神に叫ぶと、神は一本の木によって水を甘く変えてくださいました。それによって民は水を飲むことができようになりました。この民の姿は、私たちの信仰生活を見るようではありませんか。救いの恵みによる大きな喜びと賛美も、試練と共に消え失せ、つぶやきばかりが口をついて出てくるのです。出エジプトの民の道を歩むのではなく、神の恵みをどんなときも忘れず、つぶやきを賛美に変える者たちでありたいものです。